
研究ノート

養護教諭の行う健康相談活動の教授方法についての文献検討

岩佐 美香¹⁾, 中村 亜紀²⁾, 本多 容子³⁾

Literature review on teaching methods of health counseling activities conducted.
by school nurse teachers.

Mika Iwasa, Aki Nakamura and Yoko Honda

Objective: To review research trends on teaching methods for health counseling activities in school nurse teacher training programs and to identify effective teaching methods for health counseling activities.

Methods: Seven articles were selected from keyword searches of “school nurse teacher,” “health counseling activities,” and “students” using the Central Journal of Medicine and Google Scholar.

Results: Literature on teaching methods of health counseling activities were reported in literature on exercises, literature on lectures and exercises, and literature on syllabi.

Discussion: Repeated exercises of role-playing experience and reflection are effective in acquiring nursing practice skills related to health counseling activities. It is also necessary to devise teaching materials using existing studies and to examine the syllabus.

Conclusion: It was suggested that health counseling activities should incorporate exercises and integrate practical training and learning in the final year.

Key words: school nurse teacher, health counseling activities, students, school nurse teacher training program, educational methods.

1. 目的

近年、グローバル化や情報化が急速に進展し、社会が大きく変化し続ける中で、学校においても、子供を取り巻く状況が変化してきている。多様化・複雑化した課題に向き合うため、教職員に加え、多様な背景を有する人材が各々の専門性に応じて学校運営に参画することにより、学校の教育力・組織力をより効果的に高めていくことが求められている¹⁾。

養護教諭が保健室で行う相談活動の一つに健康相談活動（ヘルスカウンセリング）がある。平成9年の保健体育審議会 答申³⁾において養護教諭の新たな役割として、

「健康相談」から「健康相談活動」として提言されたものである。このことは、養護教諭が保健指導や健康相談に関しての調整役割やリーダーとして期待²⁾されていることであり、子どもの様々な課題や問題に対応する専門的な役割と認知されたことと捉えることができる。

養護教諭は、全校の児童生徒の心身の健康を見守り、子どもへの積極的肯定的関心をもち、専門的立場からの心と体の健康情報の把握をしている。また、医学・看護学的技能を生かした対応を行い、教育職員として教育機能を生かした対応をしている。子どもたちの日々の表情・行動・態度などの変化から子どもの不調や疾病の兆候、不適応のサインを見極める能力が求められている。さらに、養護教諭の行う健康相談活動においては、身体的不調が心の健康問題と関連していることもあるため、その身体症状を心の健康問題のサインとして見抜く力が求められる。そのため、健康相談活動は重要な活動であり、心の健康問題と身体症状に関する知識理解、受けとめ方等についての判断力と対応力が必要となる。

養護教諭養成課程においてこの健康相談活動を教授する際、学生の学びをどう発展させていけるのかが課題と

1) 藍野大学大学医療保健学部・看護学科

Tel : 072-627-1711

Email address : m-iwasa@ns-u.aino.ac.jp

2) 京都女子大学発達教育学部教育学科養護・福祉教育学専攻

Tel : 075-531-9170

Email address : nakamuak@kyoto-wu.ac.jp

3) 藍野大学大学医療保健学部・看護学科

Tel : 072-627-1711

Email address : y-honda@ns-u.aino.ac.jp

なる。久保田の文献検討では、養護教諭は児童生徒の訴える症状や緊急時等の個々のニーズに応じ、様々なアセスメントや対応の方法（スキル）を駆使し、コーディネーター的役割を担い、各関係機関と子どもをつなぎ、連携を図りながら健康相談を行っていた。一方、経験年数の浅い養護教諭は教職員や保護者との連携に困難感を抱えているとされている³⁾ことから、健康相談に係る養護教諭の力量は、養護教諭の養成段階で担保されるべき力量といえる⁴⁾。

教育職員免許法施行規則には「健康相談活動の理論及び方法」は2単位と示されているが、実践力を養成機関で担保するには十分な単位数とはいえない。そのため、学生にどのように健康相談活動を教授することが効果的であるのかを検討する必要がある。そこで、「養護教諭」「健康相談活動」「学生」をキーワードに文献検討を行うことで、健康相談活動の効果的な講義・演習を計画する一助となると考えた。

本研究の目的は、養護教諭養成課程の健康相談活動の教授方法に関する研究動向を概観し、養護教諭養成課程での健康相談活動に関する効果的な教授方法を明らかにすることである。

II. 方法

医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) を用い、キーワードを「養護教諭」「健康相談活動」「学生」として検索を行った結果、44 件の文献が検出された。これらのタイトルから、養護教諭養成課程の健康相談活動に関する講義や演習内容を取り扱ってないと判断されるもの 39 件、特集・学術集会報告・学術雑誌以外の雑誌記事 2 件、合計 41 件を除外した 3 件の文献を対象とした。さらに Google Scholar でハンドリサーチを実施し、7 件の文献を追加し、重複文献 2 件を除いた。取り寄せができた 7 件の文献を分析

対象とした (図 1)。

III. 結果

養護教諭養成課程における健康相談活動の教授方法に関する研究動向は、演習に関する文献①②③⑥と講義・演習に関する文献⑦、シラバスに関する文献④⑤の報告があった (図 1)。

健康相談活動の教授方法のうち、演習に関する文献①では、事例を用いたロールプレイングを実施する模擬場面で養護教諭役の学生のレポートの発言内容の変化から調査していた。学生は、健康相談活動の模擬場面において、児童生徒への支援を心理的・教育的な側面を視野に入れながら、まず、医学・看護学的側面から身体症状に着目して身体に関わり、心の問題へと迫っていくという過程を踏まえていることが明らかになった⁵⁾。また、文献③は、Wallace の内省モデル (1991) を模した演習内容においては、授業における体験とリフレクションは密接な関係にあり、子ども役と養護教諭役を演じた当事者だけでなく、観察者である受講学生すべてから同じ学習効果を得ることができたと報告されている。学生は内省モデルに呼応するように、ロールプレイング体験とリフレクションの繰り返しにより、専門的能力に迫るとした。体験と省察の積み重ねによって、健康相談活動に関する養護実践力の獲得に迫ることができることがわかり、ロールプレイングを用いた教育方法の有効性が明らかにされた⁶⁾。また、文献⑥教師集団・SC・SSW による模擬ケース会議用に開発した教材を用いた授業に参加した学生の講義後の感想から、学生は心身両面の支援者としての役割や専門性、独自性を再確認していたことが整理できた。また、模擬ケース会議では、連携やコーディネートする相手となる教員や専門職の役割を学べたことから、組織支援における養護教諭の役割を果たすために必要なイメージが形成できるなどの効果が見られた⁷⁾。文献②の学生が主体的に活動し健康相談活動のカルタを作成する演習では、学校等の現場で実践に役立つ内容を既存の知識や経験した知恵をもとに「すくすく子育て健康相談カルタ」というテーマで、ひとり 2 枚作成していた。学生たちがカルタの文を考えたヒントを見ると、一つの講義だけで健康相談活動を行う力がつくということではなく看護学科で学ぶすべての講義が関係しているとしている。また、学生の学習活動の中心を楽しく活気ある授業にする方法は効果的である⁸⁾としている。

一方、オンライン講義と対面演習を取り入れた文献⑦は、学生の毎回のレポートを基に計量テキスト分析した結果から、チーム学校の中で養護教諭はどのようにその

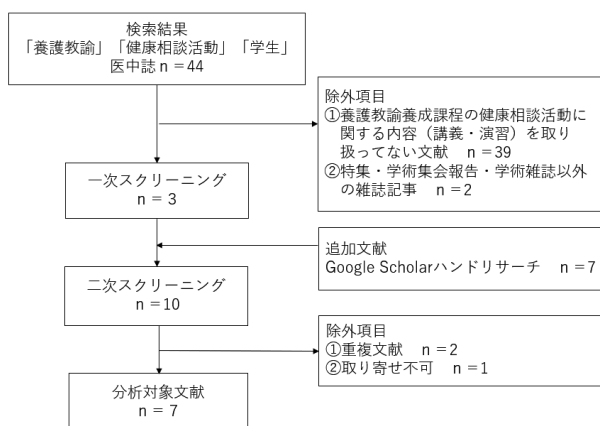


図 1 分析対象文献検出のプロセス

専門性を発揮すべきか、といったことを常に考えることができるような学生を育てることを意識している。そのために、チームとして動くためにどのような専門性が必要か、どのような働きかけが必要なのかといった具体的な内容について、学生が考える機会を授業内で持つ必要があるとしている⁹⁾。

文献④「健康相談活動の理論および方法」科目について、シラバスの組み立てと開講している大学の科目責任者に養護教諭経験を調査した結果からは、科目担当者の養護教諭経験の有無に関わりなく、「健康相談活動の理論及び方法」の講義を養護教諭養成における応用科目として位置付けていることが開講時期や授業形態等からうかがえた。しかし、連携に関することが不十分であることや、どのような能力をつけたいかという評価の観点について不十分であることを指摘している。養護教諭経験有群では、モデルシラバスに従った展開がされており、養護教諭になったときも活用できるような教科書指定がされていた。また、実践的状况を意識したねらいや達成の視点が示されていた。養護教諭の経験のある者が科目担当者として適していることが示された¹⁰⁾。

また、文献⑤の健康相談活動の学習方法としては、演習や実習による学習体験を多く取り入れ、場面を設定して考えさせ、その考えを交流し検討するような授業の提供が必要とされる。また、養護実習で学んだ経験知を教職専門や教科専門の学問知識(理論知)とすり合わせた科目全体の構成を考え配置する必要があるとされている¹¹⁾。特に、養護実習での経験知と学問知を統合して試行的に実践する場としての実習科目を、養護実習後に学内に位置づける必要がある。「健康相談活動の理論及び方法」については、2003年、にモデルシラバス¹²⁾が示され、15回の具体的な授業展開が示されており、この活用が望まれる。養護教諭の職務の特質を生かし、保健室の

機能を生かして行われる健康相談活動は養護教諭の力量を総合的にはかる指標と言えることから、健康相談活動の養護実践において求められる資質は、養護教諭の力量を最大限発揮するものと捉えられる。よって、「健康相談活動の理論および方法」科目の開講時期は、4年間の学習のまとめにあたる時期が望ましいことが示された。また、学習方法としては、理論に加え、実践的な対応力が身につけられるよう、演習での学びだけでなく、実習での学びが必要となることが示唆された。

IV. 考察

養護教諭養成課程の健康相談活動の教授方法に関する文献のうち、健康相談活動の教授方法として、アクティブ・ラーニングが用いられていた。平成24年度の中央教育審議会(答申)で言及されたアクティブ・ラーニングは、これまでの能動的な教育から主体的な学修を目指し普及してきている。アクティブ・ラーニングの手法として、ロールプレイングが教育場面で注目されている。これは、現実に近い状況を設定して、参加者が特定の役割を演じることで物事を客観視し、自分では気づかなかった課題の解決や再発見ができる学習方法である。文献から、実技指導のロールプレイングにより学生は、体験の中で省察し、実践することにより、子どもの心が開くことを学ぶことができていた。また、体験しながらどうすべきか、子どもの様子をうかがいながらリフレクションして、その時の状況と対話することができていた。佐々木は、学習者がロールプレイングを試行→省察→再試行という流れの中でこそ改善の場が生まれるとしている¹³⁾。また佐藤は、教育実践の質を総体的に向上させていく実践的指導力の中核は実践的状况における省察と熟考である¹⁴⁾としている。これらのことから、健康相談活動に関する養護実践力の獲得は、ロールプレイングの後に、

表1 分析の対象となった文献

-
- ① 今野洋子：発言カテゴリーの生成からみる健康相談活動の課程—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて—。人間福祉研究 7, 119-134 (2004)
 - ② 天野洋子, 平賀ゆかり：学生の学習活動を中心とした健康相談活動の授業—カルタづくり、カルタ大会から—。岩手県立大学看護学部紀要 6, 145-151 (2004)
 - ③ 今野洋子：養護教諭の実践力育成を目指した「健康相談活動演習」の展開。人間福祉研究 12, 61-73 (2009)
 - ④ 今野洋子：科目担当者の経験に着目した「健康相談活動の理論及び方法」開講状況の分析。人間福祉研究 13, 13-28 (2010)
 - ⑤ 今野洋子：健康相談・健康相談活動に必要な知識・技術。人間福祉研究 16, 89-96 (2013)
 - ⑥ 鈴木薫, 荊木まき子：養護教諭養成における学生の多職種連携に対する認識—「模擬ケース会議」経験後の感想—。就実教育実践研究 9, 93-100 (2016)
 - ⑦ 荒川雅子：「健康相談活動の理論と演習」の授業の検証—計量テキスト分析を用いて—。東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系 73, 325-336 (2021)
-

リフレクションする時間を設けることが効果的であると考える。また、養護教諭と子どもの役割体験だけでなく、教職員をはじめ、保護者や専門機関との連携を取りながら、子どもの問題への適切な対策や支援の仕方を探るという連携についても、養護教諭養成課程の段階で意識させておくことも効果的である。学校において協働のための仕組みやルール作りが進められる際には、養護教諭はその専門性を発揮することが求められる¹⁵⁾。養護教諭はチーム学校の一員であるため、学校の組織力と養護教諭の職務の専門性を活かしながら、児童生徒を支援することが健康相談の発展につながる。そのため、教員との連携については、日頃から人間関係を築く必要があるが、新任養護教諭にとって短期間での構築は難しいと推察されている¹⁶⁾。このことから、養護教諭養成課程の段階から他職種連携のロールプレイングを取り入れることは有効性が高いと考える。養護教諭も他の教員と同じように学校のチームの一員として問題解決にあたる必要があるが、その際に、養護教諭は常に根拠を持った説明と対応が求められ、外部の専門家と連携する際のコーディネーター的役割も求められる。役割体験ではこういったコーディネーター役割の重要性も再度学ぶ機会になると考えられる。ロールプレイングを取り入れた教育方法の有効性は高いことから、技術や演習にはロールプレイングが望ましく、答えのない問題に対して自ら解を見出していく能力を学修するには効果的であると考える。

また、学生に健康相談活動以外の既存の科目の知識を用いて、カルタ制作する演習においても、アクティブ・ラーニングを取り入れることにより、学生が自ら学ぶ、共同して学ぶことに繋がっていた。学生同士が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場になり、効果的な方法であると考えられる。

健康相談活動の科目の開講時期は、学びが統合できる最終学年が望ましく、学習方法としては、理論と実践を統合できるような工夫が必要である。健康相談活動の対象者のニーズにより対応方法が異なることは必然であるため、子どもの様々な症状や緊急時の場面においての対応を演習で想定し、最終学年で実習と学びを統合させる教育方法が必要である。

V. 結論

先行研究から、養護教諭養成課程における健康相談活動の教授方法としてアクティブ・ラーニングが効果的である。技術演習ではロールプレイング、講義では既存の知識を用いた教材作成を用いることで、理論だけでなく

実践的な知識技術を身に付けることができることが明らかになった。また、健康相談活動の開講時期は最終学年が望ましく、演習と実習の両方の学びが必要である。

文献

- 1) 文部科学省. (29年3月). 現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～. https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_icsFiles/afieldfile/2017/05/01/1384974_1.pdf (2023-10-20 参照)
- 2) 衛藤隆, 養護教諭による健康相談活動のこれから—学校保健安全法施行後を見据えて—, 日本健康相談活動学会誌, 2009, 4, 5-9
- 3) 久保田かおる, 中下富子, 養護教諭の行う健康相談に関する文献検討, 埼玉大学紀要, 教育学部, 2018, 67(2), 165-174,
- 4) 荒川雅子, 「健康相談活動の理論と演習」の授業の検証—計量テキスト分析を用いて—, 東京学芸大学紀要, 芸術・スポーツ科学系, 2021, 73, 325-336,
- 5) 今野洋子, 発言カテゴリーの生成からみる健康相談活動の課程—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて—, 人間福祉研究, 2004, 7, 119-134,
- 6) 今野洋子, 養護教諭の実践力育成を目指した「健康相談活動演習」の展開, 人間福祉研究, 2009, 12, 61-73
- 7) 鈴木薫, 荊木まき子養護教諭養成における学生の多職種連携に対する認識—「模擬ケース会議」経験後の感想—, 就実教育実践研究, 2016, 9, 93-100,
- 8) 天野洋子, 平賀ゆかり学生の学習活動を中心とした健康相談活動の授業—カルタづくり, カルタ大会から—, 岩手県立大学看護学部紀要, 2004, 6, 145-151:
- 9) 荒川雅子, 「健康相談活動の理論と演習」の授業の検証—計量テキスト分析を用いて—, 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系, 2021, 73, 325-336
- 10) 今野洋子, 科目担当者の経験に着目した「健康相談活動の理論及び方法」開講状況の分析, 人間福祉研究, 2010, 13, 13-28
- 11) 今野洋子, 健康相談・健康相談活動に必要な知識・技術, 人間福祉研究, 2013, 16, 89-96
- 12) 健康相談活動カリキュラム開発研究会: 報告書 健康相談活動の理論及び方法—カリキュラム及び指導方法の開発—, 2003
- 13) 佐々木智之, コミュニケーション能力育成における

- ロールプレイングの効果, 工学教育, 2020, 68(5), 27-32
- 14) 佐藤学, 教育方法学, 岩波書店, 1996, 138
- 15) 大沼久美子, 第2章 現代的健康課題を健康相談・健康談活動, (三木とみ子, 徳山美智子編), 新訂 養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践, 2019, ぎょうせい, 東京都
- 16) 岩井由里, 池添志乃, 養護教諭が行う健康相談に関する文献検討, 高知県立大学紀要 看護学部編, 2013, 62, 45-55